

【農業水利施設の魅力を知ってほしい(No.8);北の大地の農業水利施設いろいろ(その 1)
(2023年12月)】

農地基盤情報研究領域 地域防災グループ上級研究員 廣瀬裕一

今回は北海道の農業水利施設で印象深かったものを紹介する。北海道の農業水利施設は、他の都府県と異なり主に大正・昭和に整備されたものが多い。受益地の圃場の1筆あたりの広さもあり、どこか雰囲気も異なり新鮮な気持ちになる。今回は特に道東と道北に着目して図1に示す3ヶ所を紹介する。



図1 紹介エリア

1. 端野の水田地帯（北見市）

北見市端野地区は道東では珍しい水田地帯を形成している。明治時代に屯田兵が入植し当初は畑作を営んでいたが、幾度となく水田作を試みて、大正13年に開削を始めた灌漑溝が整備された結果、水田作が可能な地域になったとのことである。

写真1-1に少々昔であるが2014年8月に訪ねた際に撮影した写真を紹介する。これらの写真はおおむね、掲載した地図の中で撮影したものである。常呂川から取水する屯田第一幹線水路がおおむね常呂川に平行して流下し、そこから要所要所で末端用水路が整備されている。圃場の中を流れる排水路の構造は土が多く、私の好きなものであった。

【アクセスと余談】

当方はレンタカーを使用した。JR端野駅から水田地帯を適当に散策しても1時間程度あれば幹線水路を含めて楽しめると思う。

また、常呂川をさらに上流に進むと常呂川第一頭首工がありその受益地も水田地帯となっている（写真1-2）。こちらを見たい方は車の利用をお勧めする。



写真 1-1 北見市端野地区



写真 2-1 千代田堰堤と水路

【アクセスと余談】

千代田堰堤へは、利用が適当なバス等の公共交通機関は探せなかった。車での訪問をお勧めする。なお、千代田堰堤からそれほど遠くない音更町十勝川温泉地区では、わずかであるが酒米が作られている(写真 2-2)。わずかに残った水田を大切にする十勝の人々に敬意を表したい。



写真 2-2 音更町の水田

3. 忠別川流域

忠別川流域は、主に旭川市の南東にある東川町に水田地帯が展開する。上流部に平成 19 年に完成した多目的ダムである忠別ダム（写真 3-1 の A）がある。

忠別ダムから忠別川が流下すると、ほどなく忠別川第 1 頭首工がありそこから引かれる幹線用水路の先に大雪遊水公園（写真 3-1 の B）を越えて東川町第 2 遊水池（写真 3-1 の C）に至る。ここからさらに下流側の水田へと水路（写真 3-1 の D）が流下する。

この流域の特徴は、要所に遊水池があることである。北海道開発局の HP の‘明治 43 年頃:石狩川上流域-土地利用 2【札幌開発建設部】治水 100 年’によれば、「上川の稲作地には無数のため池がある。ため池の目的は、かんがい用水とともに、水温の上昇も考えられる。水温が低いと稲の成長をさまたげ、いもち病にかかりやすいためだ。とくに忠別川は急流のため水温が低く、大正時代に忠別川発電所が建設されたことで問題は深刻化した。忠別川には志比内発電所と江卸発電所も建設され、忠別川の流水の一部が長距離にわたってトンネルで流されたため、かんがい用水の水温は一層低下してしまった。忠別川流域の各まちの土功組合は協力して、問題解決にあたった。水温上昇施設の遊水池を建設するため「東和土功組合」が昭和 17 年に設立、戦争の影響で 8 年かかったが、昭和 25 年に 6 箇所遊水池が完成した（東神楽、東川上流、東川第一、東川第二、東旭川上、東旭川下）。日光で温められた池の表面水が、流域の農地に送られている。」とある。

現在、遊水池は公園としても活用されており、気持ちよい空間であった。低い水温を克服して稲作地帯として成立させている遊水池は、忠別川流域の農業水利システムの特徴と言える。

【アクセスと余談】

忠別ダムへは、車でアクセスすることをお勧めする。大雪遊水公園へは、JR 旭川駅から旭川電気軌道バス旭岳行きに乗車して東 9 号バス停下車すぐである。ここから東川町役場に向けて用水路沿いを歩いて、役場まで 2 時間前後である。東川町第 2 遊水池や忠別川第二頭首工（写真 3-2）など、農業水利施設の見どころは多い。東川町役場からはバスで JR 旭川駅まで戻れる。



図 2 忠別川流域の紹介箇所



写真 3-1 忠別川流域の農業水利施設



写真 3-2 忠別川第二頭首工と用水路